



TOP

開催概要

プログラム

参加申込

アクセス

『持続的農業のためのGAP(適正農業管理)』
—顕在化した農業由来の環境汚染と対応のポイント—
—社会的・経済的・環境的に持続可能な農業の体制整備と農場管理技術—

Information

2013/2/22

「2012 年度GAP シンポジウム」は終了いたしました。たくさんのご来場をいただき、誠にありがとうございました。詳しい報告は、[普及ニュース第32号](#)をご覧ください。<

2012/11/29

[プログラムを更新いたしました。](#)

2012/11/02

[開催概要を更新いたしました。](#)



開催：2013年2月21日(木)～22日(金)

会場：東京大学弥生講堂（東京大学農学部内）

主催：一般社団法人 日本生産者GAP協会
農業情報学会



大会事務局

〒305-0035 茨城県つくば市松代3-4-3-A-402

tel:029-861-4900 fax:029-856-0024

email:mj@fagap.or.jp 担当:山藤(さんとう)



TOP

開催概要

プログラム

参加申込

アクセス

農業情報学会 第24回食・農・環境の情報ネットワーク全国大会
一般社団法人日本生産者GAP協会 2012 年度GAP シンポジウム

『持続的農業のためのGAP(適正農業管理)』

— 顕在化した農業由来の環境汚染と対応のポイント —
— 社会的・経済的・環境的に持続可能な農業の体制整備と農場管理技術 —

■開催概要

名 称	農業情報学会 第24回食・農・環境の情報ネットワーク全国大会 一般社団法人日本生産者GAP協会 2012 年度GAP シンポジウム
課 題	持続的農業のためのGAP(適正農業管理)
期 日	2013年2月21日(木)午後1時～22日(金)午後4時
会 場	東京大学弥生講堂(東京大学農学部内) HP 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内 TEL: 03-5841-8205
主 催	一般社団法人 日本生産者GAP協会 / 農業情報学会
共 催	東京大学大学院農学生命科学研究科 生態調和農学機構 / 韓AGIC
事 務 局	一般社団法人日本生産者GAP協会 教育・広報委員会 / 韓AGICシンポジウム事務局
参加費(資料代)	《主催、共催団体の会員》¥ 10,000 《一般》¥ 15,000 《学生》受講料無料・資料代のみ¥2,000
対象者	農業試験研究者、農業普及関係者、大学・大学校、農業高校、農業生産者、農業法人、農協、出荷組合、産直団体、農林行政機関、卸売市場、卸売会社、農産加工会社、農産物流通・小売企業、外食企業、消費者、調査・検査・認証機関、研究機関、消費者、その他

■シンポジウムの狙い

豊かさを求め続ける人間の暮らしや経済活動が、地球システムの自己修復性を脅かしています。水質については、地下水の硝酸塩濃度が高くなり、飲用に適さない地域が多くなっています。その主な原因は、農地に施用された窒素肥料のうち、作物に吸収されない窒素量が多くなっているためであることが明らかになりました。窒素等の肥料成分が環境へ及ぼす負荷量を減らすためには、肥料成分の利用効率を高めて施肥量を減らすことが必要であり、そのための様々な研究と技術開発が行われています。これらの技術に基づいた「適正農業管理」が、今私達に求められている「GAP: Good Agricultural Practice」なのです。

今回のシンポジウムでは、先ず初めに、日本でも顕在化している地下水の硝酸塩汚染問題とその解決方法について議論を深めます。

このような農業由来の環境汚染やそれによる食品危害のリスクを削減するために、その指針となる教科書の「適正農業規範」(GAP規範)の編集・発行が都道府県で進められています。これらの地域版「GAP規範」を順守することがGAP(適正農業管理)であり、「GAP規範」に基づいて現場を改善することこそが、「GAP推進は難しい」と言われている現状を打破できる唯一の手段です。

シンポジウム2日目は、「県版GAP規範の作成」と「GAP指導者の養成」で先進的な取り組みをしている5つの県の事例発表から、GAPIに取り組む意味と効果的なGAPの推進方法について学びます。

TOP	開催概要	プログラム	参加申込	アクセス
-----	------	-------	------	------

主 催：一般社団法人日本生産者GAP協会、農業情報学会
共 催：東京大学大学院農学生命科学研究科 生態調和農学機構
株式会社AGIC

農業情報学会 第24回食・農・環境の情報ネットワーク全国大会
一般社団法人日本生産者GAP協会 2012年GAPシンポジウム

『持続的農業のためのGAP(適正農業管理)』 —顕在化した農業由来の環境汚染と対応のポイント— —社会的・経済的・環境的に持続可能な農業の体制整備—

■プログラム:2月21日(木)

- 12:00～ 受付
- 13:00～13:15 開会(総司会:石谷孝佑 日本生産者GAP協会 常務理事)
- 主催者挨拶** 『安全で持続的な社会と農業の最適化』
二宮 正士 日本生産者GAP協会 常務理事
農業情報学会副会長
東京大学教授・生態調和農学副機構長
- 13:15～14:15
基調講演 『GAPは持続的農業と地域振興に寄与するものでなければならない』
田上 隆一 日本生産者GAP協会理事長、韓AGIC代表取締役
*顕在化した農業由来の環境汚染とGAPの位置付け
*GAPにおける適正と農場評価制度、普及指導員とJAの役割
- 14:20～14:40
事例報告 『農業由来の地下水の硝酸塩汚染と地域行政の対応は』
長野県安曇野市農林部農政課生産振興係
*水道水源としての地下水利用と農業由来の硝酸塩汚染の懸念
*対策としてのGAP(肥料と家畜糞尿の適正管理)推進
- 14:50～15:50
講演 『硝酸性窒素の環境動態予測技術と負荷軽減対策技術』
江口 定夫 (独)農業環境技術研究所 物質循環研究領域 化学物質環境動態・影響評価リサーチプロジェクトリーダー
*圃場における水移動と硝酸塩の溶脱、土壌の物理性
*圃場から流域スケールでの窒素循環(特に地下水汚染とその対策)
- 15:50～16:00 <休憩>
- 16:00～17:00
総合討論 『価格に反映できない社会的利益への取組みとGAPによる評価』
司会 山田 正美 日本生産者GAP協会常務理事・福井県農業再生協議会事務局長
安曇野市農林部農政課生産振興係、江口定夫、二宮正士、田上隆一、石谷孝佑
*農業の多面的機能の整理、過去の講演のレビュー
*GAPで何をすべきかについての方向性の明確化
- 17:20～
情報交換会 『都道府県・地域のGAP取組みの情報交換会』会費¥3,000

■プログラム:2月22日(金)

- 08:10～ 受付
- 09:00～10:00
講演 『GAPの普及は持続可能な農業の体制整備から』
田上 隆一 日本生産者GAP協会 理事長
*GAP指針の策定・P&ET GAP指針表の作成 農場評価制度の構築

※地域版GAP規範の策定と役割、地域版実践マニュアルによる普及等

10:00～10:10 <休憩>

10:10～12:00

事例報告

「効果的なGAP推進の仕組み＝地域版GAP規範・農場評価制度・GAP指導者養成」

※地域版GAP規範の策定経緯と目的・制度設計などの共有化

①『富山県GAP規範とその推進＝規範策定の経過とGAP指導者養成』

井上 勝義 富山県農林水産部農業技術課エコ農業推進係

②『新潟県のGAP推進とGAP規範の策定』

阿部 渉 新潟県農林水産部農産園芸課生産環境係

③『長野県のGAP指導者養成とGAP規範作成、その成果と今後の取り組み』

百瀬 文貴 長野県農政部農業技術課環境農業係

12:00～13:00 <<昼食>>

13:00～14:20

事例報告

『GAP指導者養成の効果的方法とその成果』

※地域版GAP規範の活用法と指導者養成などの共有化

①『栃木県のGAP指導者養成とGAP規範の活用およびその成果』

菊地 祥康 栃木県農政部経営技術課環境保全型農業担当

②『静岡県GAP指導者養成講座の開催とJAの取り組み』

坂口 良介 静岡県農業協同組合中央会 農政営農部

③『山形県JA金山のGAP指導者養成とGLOBALGAP団体(28農場)認証の取得』

河合 克行 株式会社アスク代表取締役

14:35～16:00

総合討論

『GAPIに取り組む意味と効果的なGAP推進手法』

司会 田上 隆一

事例報告者：井上 勝義、阿部 渉、百瀬 文貴、菊地 祥康、坂口 良介、河合 克行

※地域におけるGAPの取り組み事例とその効果の共有化

※内容につきましては、変更になる場合もございますので、その旨ご容赦下さい。

※講演内容、時間は進行上の都合により変更になる場合もございます。あらかじめご了承ください。（敬称略）